

修紅短期大学

同窓会報 第24号

発行 令和8年3月
編集 修紅短期大学同窓会
電話 0191-24-2211(代)

あいさつ

同窓会 会長
鈴木悦子



同窓生の皆様、お変わりなくお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。ここの一関は、栗駒山のおかげで冬の厳しい風雪もそれほど影響がなく、いつの間にか足元に福寿草の芽が顔を覗かせ、春の訪れを感じる季節となりました。

一昨年の第三十二回同窓会総会では、二年ぶりの再会を喜び合い、お互いの近況を報告し合うなど、とても懐かしく和やかな時間を過ごすことができました。総会後には、短大で学生たちを指導されている千葉栄様(当時、公益財団法人岩手県林業労働対策基金参与)を鈴木美樹子先生よりご紹介いただきました。普段は意識することの少ない「木を育てる森の力」について、わかりやすい言葉で丁寧にお話いただき、お話を聴き終えたあと、心身と

もにリラックスしている自分に驚いたことが思い出されます。総会も無事に終了し、次回の再会を楽しみにそれぞれ帰路につきました。

最近の世界情勢は、あらゆる分野において先を見通すことが難しく、気候変動も相まって、日々の生活をより細やかに注視しなければならぬと感じる昨今です。そのような中、年が明けてからは様々なスポーツの力が、私たちの心に元気を届けてくれているように感じます。特に地元の選手たちの活躍には、大いに励まされております。

さて、母校からは今年度も卒業生の就職率が九〇%を超えたという嬉しいニュースが届いております。新社会人として、胸を張って社会で活躍されることを切に願うばかりです。また、短大では独自の法人化を目指し、現在国への申請を調整中とのことです。私学の学校経営を取り巻く環境は依然として厳しく、課題も山積していることと存じます。まずは学生募集に向けて大変なご努力をされていることとお察しいたします。どうか母校がさらに発展し、学生の皆さんが安心して勉学に励めるよう、引き続き吉報を待ちたいと思います。

最後になりますが、長年にわたり同窓会活動でも大変お世話になりました鈴木美樹子先生が、令和七年三月にご退職されました。名残惜しさは尽きませんが、これまでのご指導に心より感謝とお礼を申し上げます。どうぞご健康に留意され、今後のますますのご活躍をお祈りいたしております。結びに、会員の皆様のご健康とご多幸、そしてますますのご活躍を祈念いたします。私からのご挨拶とさせていただきます。

第三十二回 同窓会定期総会報告

第三十二回同窓会定期総会が、令和六年七月十日にホテル松の薫一関に於いて開催されました。参加者は、同窓生十七名でした。吉瀬献策学長はじめ、鈴木美樹子先生、皆川理奈先生、鈴木光博事務長にご出席いただきました。総会で次の各議案が承認、可決されました。

- 1、令和四・五年度会務報告、決算報告について
- 2、令和六・七年度事業計画、予算計画について
- 3、令和六・七年度役員改選役員(令和六・七年度)

会長 鈴木悦子
副会長 寺崎敏子
若生啓子



監事 関波嘉久子

佐藤紀子

総会後、修紅短期大学タッチベルクラブの学生並びに卒業生の皆さんが、木を使った手作りオリジナル楽器の演奏や合唱で会場を盛り上げてくれました。また、今回は講演会を企画し、公益財団法人岩手県林業労働対策基金参与(当時)の千葉栄さんから「木のはなし、The Tree」木を育てる森の力」というテーマで講話をいただきました。恩師の先生、同窓生の皆さんとの再会は懐かしく、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。同窓会定期総会は二年に一度の開催です。数多くの同窓生の参加をお待ちしております。



恩師寄稿

サマー&オータムスクール

幼児教育学科 准教授

中 尾 彩 子



幼児教育学科准教授の中尾彩子と申します。本学では、共同教育プログラム「かんがえる木」を開始しました。そのプロジェクトの一つとしてサマー&オータムスクールを企画しました。サマー&オータムスクールは、一関市の豊かな自然や地域資源を活かし、子どもたちが自然の中で遊び、学び、成長することを目的とした体験型プログラムです。「木と育つ」をテーマに、短大・地域が連携し、森林教育の視点を取り入れたさまざまな活動を実施しています。

プログラムでは、沢遊びや木工体験、紙漉き、舟下り、林業体験、落ち葉遊び、ピザ窯体験、科学実験など、多様な体験活動を行っています。自然の中で思い切り遊ぶだけでなく、木や森の役割、地域の文化や産業について学び、



自分で考え、挑戦する機会を大切にしています。

また、本プログラムは子どものみで参加する形式としており、学生スタッフや教員が活動をサポートします。子どもたちは仲間と協力しながら活動に取り組み、新しいことへの挑戦や自然とのふれあいを通して、自立心や協調性を育んでいます。保護者からは、「家庭ではできない貴重な体験ができた」「帰宅後も楽しそうに活動の話をしてくれた」「子どもの成長を感じた」といった声が寄せられています。

地域には豊かな森林や自然がありますが、日常生活の中で自然と触れ合う機会は年々減少しています。サマー&オータムスクールでは、地域ならではの自然や文化、人とのつながりを活かしながら、子どもたちが地域の魅力を再発見し、自然を身近に感じられる機会を提供しています。今後も地域とともに、子どもたちの豊かな学びと成長を支える活動を継続していきます。

こころの動きと今ここに あるものを見つめて

幼児教育学科 助教

皆 川 理 奈



はじめまして、幼児教育学科助教の皆川理奈と申します。造形科目を担当しております。

「作るの好き？」と聞くと、九割の学生は「センスがない」「自信がない」「不器用」「自由が難しい」等の消極的な返答をします。子どもたちは屈託なく創造を楽しんでいるのに、いつから作ることへの苦手意識は芽生えてくるのでしょうか。これは、大人や周りからの評価による影響が小さくないと感じています。本当は、いきいきとした創造の中で互いの違いを認め楽しさや感動を味わったり分かち合ったりすることが重要で、相対的な上手下手はどうでもいいのに、それに囚われて作ることが嫌いになってしまうのは本当に勿体無いことです。そこで、授業の中では「遊び」の要素を取り入れ、学生たちに作る楽しさを思い出してもらうことから始めています。最初から作品を作るのではなく、「楽しい」や「きれい」といった「こころの動き」を観察することから始め、徐々に「作る」「表現」へと向かってゆきます。

また、「ここににあるもの」への関心



泥のにおいを嗅ぐ



拾ってきた葉っぱ

も大切にしています。材料を買うだけではなく、材料となる草木や木の実、土などを採取するフィールドワークから始めることもあります。また令和六年から、「木」を知り、考える活動を始めました。一関市は森林面積が市全体の六割超を占めるそうで、豊富な地域資源を教材に「ここ」を知り、子どもたちに伝える取り組みとして行っています。「作る」は世界と繋がっていて、「選ぶ」は未来を変える可能性を孕み、それ故に材料への配慮は「作る責任」について考えることでもあります。私は東京で大学生活を過ごしましたが、一関では出来るけど東京では出来ないことって結構あるなと感じています。「ここににあるもの」を見つめ、この広さが、おおかさが、自然があるここではないか。出来ない創造を、学生や子どもたちが存分に楽しめるよう、努めて参りたいと思います。

同窓生だより

保育士人生を支えた母校

昭和四十八年三月保育科卒業

若生 啓子



卒業してから五十三年が経ちました。当時の校舎は木造で、現在の関修紅高等学校の敷地内にあります。

二階の教室や一階のピアノ室、そして階段教室への移動中に立ち寄った売店のロッケの味など、何気ない日常が今も懐かしく思い出されます。

当時は現在に比べのどかな時代で、私はフォークダンス部に所属し、仲間と踊り、笑い合う楽しい学生生活を送っていました。当初は幼稚園教諭のみでしたが、卒業の年に保育資格（現在の保育士証）の取得が可能になり、夏・冬休みの集中講義や実習を経て、卒業後二年で資格を手に入れることが出来ました。

卒業後は盛岡の幼稚園に就職しました。新入園児と共に涙したあの日から、幼稚園教諭を定年退職した後も、縁あって一関の保育園でパート保育士として働き続けてきました。定年後も現場に立ち続ける事が出来たのは、学生時代に取得した資格があったお蔭と心から感謝しております。

周囲の支えや家族の応援に恵まれ、歩んできた五十三年の保育士生活も、この三月ピリオドを打ちます。かけがえない学び舎である母校の、さらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

世代を越えて
つながる学び舎

平成十一年三月幼児教育科卒業

菊池 比奈子



この度は、同窓会会報の発行、誠にありがとうございます。かつて二十八年前私が

「麻生東北短期大学」を卒業し、今年度晴れて娘が「修紅短期大学」を卒業することになりました。保護者として子どもが本校で過ごした年月を思い出し、時代の流れの速さを実感しました。時折、学び舎を訪れる機会があり、当時学食をもりもり食べた食堂、ピアノの練習や講義を受けた校舎、ほぼ毎日過ごした体育館がなにと懐かしく感じられました。

また、大イベントである「ファンタジックコンサート」を親子二代で経験できたことに感謝を受けました。行事を通して自ら考えて行動し、園児と学生が協力することは将来子どもと関わるために必要なことを学ぶとても良い経験になったと思います。

私自身、子どもと関わる仕事からは

離れてしまいましたが、娘が保育士を目指したことに当時の思い出や嬉しさを感じました。娘には実習先で先生方にたくさんご指導いただいたこと、授業で学んだことを今後に生かしてほしいと思います。

卒業後はそれぞれ異なる道を歩むこととなります。しかし、同じ学び舎で過ごした仲間との嬉しかったことや学生時代の困難がいつしか前を向く力に変わると思います。

最後にこれからも同窓会の輪が広がり、世代を超えてつながりが深まってくること、修紅短期大学のますますの発展を心より願っております。

お知らせ

※名誉教授※

鈴木 美樹子 先生

令和七年三月三十一日付退職、名誉教授の称号を授与されました。

■ 訃 報 ■

修紅短期大学（麻生東北短期大学）並びに本会の発展にご尽力された先生の訃報をお知らせ致します。

小野 得代 先生

修紅短期大学名誉教授
令和七年五月 逝去

ご生前のご恩に心より感謝申し上げます、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

修紅短期大学の

取り組み

・3コースの設置

令和八年四月より幼児教育学科に三つのコースを設置。

- ① こども教育コース・・・保育士・幼稚園教諭・保育教諭をめざす
- ② 支援教育コース・・・※1 特別支援学校教諭・幼稚園教諭をめざす

- ※1 星槎大学通信課程と連携
- ③ キャリア教育コース・・・一般就職・公務員・・・※2 パティシエをめざす

※2 気仙沼リソース調理製菓専門学校と連携

・星槎大学との教育連携協定を締結

共同教育プロジェクト「かんがえる木」を始動

・令和七年度公開講座の実施

第一回テーマ・・・「保育の現場で活躍、あなたらしい音楽の奏で方」

第二回テーマ・・・「毎日が少し楽になる心理学―行動分析で考えるこころと行動の関係―」
「子どものためのおやつ作り」



大学祭でのステージ発表の様子

学園だより



サマースクールの様子



星槎大学との連携協定



公開講座の様子

岩手県民体
育大会成年
女子六人制
の部
優勝
東北地区大
学総合体
育大会バ
レーボ
ール
競技
一回戦敗退



女子バレーボール部
活動報告
(令和七年度)



授業の様子（園児とスライム作り）

事務局だより

●別紙に記載の各学年委員は、卒業時に選出された方で同窓会からのお知らせを伝えたり、取りまとめ等のお世話をいただく方々です。

●今年は隔年で開催している同窓会定期総会があります。

●（別紙参照）多くの会員皆様の参加をお待ちしております。

●住所が変更になった方、お名前が変わった方などは事務局へ連絡願います。

（個人情報、会報発送にのみ使用します。）

編集後記

同窓会報第二十四号をお届けいたします。同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、長年にわたり私たちを熱心にご指導くださった鈴木美樹子先生が、ご退職されました。これまでの多大なご功績に、心より感謝申し上げます。

今号も限られた紙面ではございますが、母校の近況や同窓生の活躍など、大変読み応えのある内容に仕上がりました。ご寄稿・ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

また、今年は定期総会が開催されます。ぜひ皆様、久しぶりに参加して一緒に声を掛け合い、楽しい時間を過ごしませんか。

最後になりますが、編集委員一同、今後もより魅力ある誌面づくりを目指してまいります。同窓生の皆様からのご意見やご感想、ご寄稿などを心よりお待ちしております。